桜歯ニュース

2023. 10. 15
VOL.220

日本大学歯学部ホームページ：https://www.dent.nihon-u.ac.jp/

日本大学歯学部の伝統と誇りを大切に！

歯学部長　飯沼　利光

この度、9月1日付けで本田和也学部長の後任として歯学部長を拝命いたしました。皆様にはこれからも変わらぬご指導ならびに、ご支援を賜りますようよろしくお願いいたします。

皆様もご存じのように、日本大学は130年の歴史を有する日本を代表する教育機関です。そして、日本大学歯学部も同様に100年以上の伝統を誇る日本を代表する歯科医師養成機関です。日本大学は、「自ら学ぶ」、「自ら考える」、そして「自ら道をひらく」の「自主創造」を教育理念としており、歯学部においてもこの日本大学マインドを有する歯科医師の輩出を目指しています。

今から100年以上も前に、歯学部の前身である東洋歯科医学校の創設者である佐藤運雄先生は「歯学を口腔に止めず、常に全身と関連づけて学ぶ」という医学的歯学を提唱されました。当時においてはかなり斬新的な考え方であったかもしれません。しかし現代においては、日本の歯科教育の基本となっています。この姿勢こそがまさに、「自ら道をひらく」の実践であったように思います。今、歯科界は厳しい時代と言われています。しかし口腔を通じて健康に資するその役割は、今後ますます重要となることに疑いの余地はありません。私たち日本大学歯学部はその先駆者として「自主創造」の理念のもと、これからの歯科界を牽引して行く若き歯科医師の養成に全力を注いでまいります。

皆さん、日本大学歯学部の伝統と誇りを大切にともに頑張って行きましょう。（教授　歯科補綴学第Ⅰ講座）

伝統校としての“誇り”と“責任”を胸に

歯学部長　飯沼　利光

私の卒業時、日本大学歯学部の国家試験合格率は90％を優に超え、本校は名実ともに“歯科界の雄”として高い評価を受けていました。ところが現在は国の方針転換により、国家試験合格者数が制限される厳しい時代を迎えています。この点において日本大学歯学部は、時代の変化への対応が後手に回ってしまったことはいなめません。

しかし、いま私たちが行っている日々の努力や教育改革は着実に実を結びつつあります。ただ、現状では成果が見えない、結果として形に表れていないものも数多く、これらを確実に形のあるものにして行くことこそ、学部長としての私の責務だと考えています。それこそが大正5年の創設から100年を超える歴史と伝統ある日本大学歯学部に期待されているものです。

そこで私は歯科医師過剰と言われる今だからこそ、日本大学歯学部は「健康歯学」を達成する歯科医師の育成に総力を上げることが重要だと考えます。言い換えれば、21世紀に必要とされる医療人を育てることであり、日本大学が掲げる「自主創造」の実現により、歯科医学の新たな可能性や価値観を生み出す医療人の輩出が望まれています。そのために学生の皆さんはもとよりご父兄の皆様、そしてすべての教職員が力を合わせワンチームとなり、互いに尊敬、信頼できる組織にしたいと考えています。

教育について

歯学部に所属する学生の皆さんは、歯科医師になるという強い目的意識を持って本学の門をくぐります。それゆえ教育の目的の1つ目は歯科医師になるために国家試験に合格することです。そして2つ目は、生涯にわたり国民から望まれる医師としての人格を育成することです。

ところが、本校の国試合格率はここ数年、全国平均を超えることなく厳しい結果となっています。既にこの解決に向け様々な対策が講じられており、共用試験の公的化を踏まえ、学力向上に向けた新カリキュラム運用もその一つです。しかし、いくら良いシステムを導入しても、それを活用し成果に結びつけるには、その目標に向け日々努力する学生の皆さんの努力、忍耐力に加え、私たち教職員の役割がシステム以上に重要と考えています。

たとえば、学びの場ではPDCAサイクルの活用が重要とされています。この中で、私たち教員が取り組むべきポイントは、PDCAのA（Action改善）の充実だと考えます。例えば、学生の皆さんは進級の際、一定の合格ラインをクリアして次の学年に進みます。しかし平均70点で進級ができても、それは同時にその教科をマスターするには30点足りないということを意味します。この足りない30点の蓄積が、

国家試験でギリギリでの不合格となる大きな原因の一つだと考えます。この解決には現場の長である教授が中心となり、全教員が国試対策要員であるとの自覚のもと、卒業までにしっかりと教授内容をマスターするよう指導することが重要だと考えます。

その指導には、あたかも親が子供の勉強を台所で見守り、寄り添うような「愛」が、今以上に私たち教職員には大切だと考えています。

一方、社会や国民から望まれる信頼される歯科医師、医療人を育てるという目標にも大きな課題があります。いま、本学学生の多くは、将来に向けはっきりとしない大きな不安を持っています。それは、将来の歯科医師の必要性、重要性、さらには経済的な安定性について、不安、悩みを抱いているからです。しかし社会の高齢化や価値観の多様化など、歯科医師の活躍の場は今後ますます拡大します。まずはそのことをしっかり学生の皆さんに伝え、将来に期待を持ってもらう必要性があります。それには日本大学が掲げる「自主創造」の理念を伝授し、自らが社会に新たな価値観を提供できる活力を持たせることが重要と感じています。

臨床について

私たちには、日本大学の付属医療機関として「国民の皆様に何を提供すべきか？」との大きな命題が与えられています。

その答えの１つ目は、教育病院として優秀な歯科医師を育てることであり、２つ目は、豊かな知識と確かな技術で患者様から信頼される地域ナンバーワンの歯科病院になること。そして３つ目は、世界都市東京の中心にあるメリットを生かし患者様からの多様なニーズに対応できる都市型の高次医療機関となることです。

この達成に加え、これからは超高齢社会に向け、口腔を中心とした健康長寿への貢献、がんなど全身疾患での周術期医療への貢献とその活動を広げることが重要と考えています。さらに、医療現場や管理業務にAIなどの新たな技術を導入し、働く環境の整備に役立てていくことも重要と考えています。

研究について

研究はアカデミーとしての根源であり、学び舎に大きな期待と夢を与えてくれます。また、世界に向けて未知なる知見を発信するチャンスを与えてくれます。

私たちの日本大学は総合大学であり、様々な研究テーマのもと、学部間の壁を取りはらい、幅広い研究が数多く行われています。この環境を生かし、今まで以上に他学部との共同研究に力を注いでまいります。

この成功に向けてのカギは、歯学部内における全学的な研究意欲の高まりにあると考えます。そのため今後は、個人や講座が追い求める研究テーマに加え、講座間の垣根を超えた、時代や社会が望むテーマについての研究活動が活発に行えるよう支援を行います。

今まで多くのことを述べさせていただきましたが、何よりも重要なのは、学生の皆さんに私たちのこの思いを、熱意と誠意をもって伝え、理解していただき、日本大学歯学部に所属する、あるいは同窓となる事への誇りと、これからの社会への責任を理解していただけるよう努力することだと考えています。

皆さん、どうぞよろしくお願いいたします。

ワールド・カフェ

田嶋　倫雄

全学共通科目「自主創造の基礎」の一環として6月4日に、16学部と短期大学部の新入生の参加のもと、ワールド・カフェ～N-Mix～が対面で開催されました。今年のテーマ「大学ってどんなところ？」について、Caféのお客様である新入生は、6名ほどで構成される1グループとなり、各自の想いをポスター用紙に書き込みながら意見を交換し合い、分かりやすくまとめ、他グループと意見を共有するグループワークに一喜一憂していました。多くの学部のキャンパスが飛び地している日本大学では、学部の垣根を超えた学生間の交流が容易とはいえない点があります。ワールド・カフェは他学部の学生らと出会い、今の想いを語り合うことができる貴重なイベントです。お互い初めて会う人達ばかりなので、最初は挨拶と自己紹介からはじめましたが、すぐに打ち解け合い、活発な話し合いが展開されたようです。

ワールド・カフェというとかなり強気で壮大な名称という感があるものの、一度経験するだけのただのイベントではないはずです。新入生とはいえ、大学内だけでなく、いずれ本当の意味での大きな世界へ出向いて行き、そして多くのCaféに立ち寄り、世界中の人達と意見を交わせる将来はもうすぐそこだからです。自己紹介には少しだけ勇気がいるかもしれません。他者の気持ちや意見を理解するのも、自分の考えを共有するのも難しいかもしれません。しかし「世界ってどんなところ？」の話しあいから「理想とする世界ってどんなところ？どうやったら実現できる？私達はよりよい世界を創り上げるために何をすればいい？」といろいろな意見交換ができるようになるための練習であるなら、ワールド・カフェはその第一歩としてとても貴重な集いになるはずです。世界の一員になるために、まず「自主」と「創造」から。新入生たちがこのワールド・カフェで大きな一歩を踏み出せたことを祈ります。　（准教授　外国語分野）

ワールド・カフェ

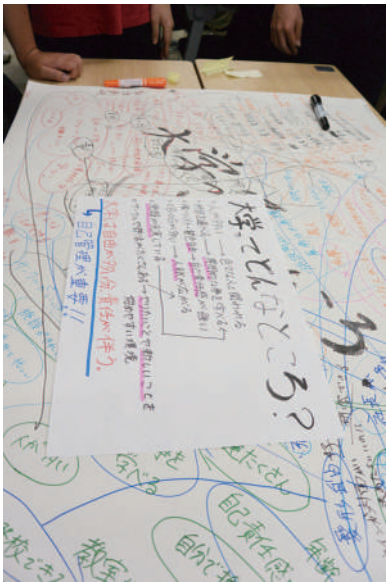
PARK JAEIE

コロナウイルスのため非対面で行われていたワールド・カフェでしたが、ついに対面に戻り、期待を持って参加いたしました。

今年のテーマは「大学ってどんなところ？」です。まず、学部の異なる6名が1つのグループとなり、自身が所属する学部の長所と短所を紹介し合ったり、どのように改善するとよいかについて意見を交わしたりしました。施設や立地に関する話が多くでましたが、学部によって図書館の規模や学食の有無に違いがあり、立地も様々であることを知ることができました。そして、より充実した大学生活を送るために、学校のどのようなシステムを利用すれば良いのかについても話し合うことができました。

その後、他のグループに移動し、また別の学生と会うことで、より様々な意見を聞くことができました。多くの学生と接することを通して、同じ日本大学の学生であっても、多様な考えを持っていることを強く感じることができました。

他グループに移動しての話し合いの後に、また元のグループに戻って理想的な大学についてまとめる時間がありました。私達のグループは、「他学部と同じキャンパスでありながら、立地が良く、学食のある大学」が理想的ではないかという意見でまとまりました。

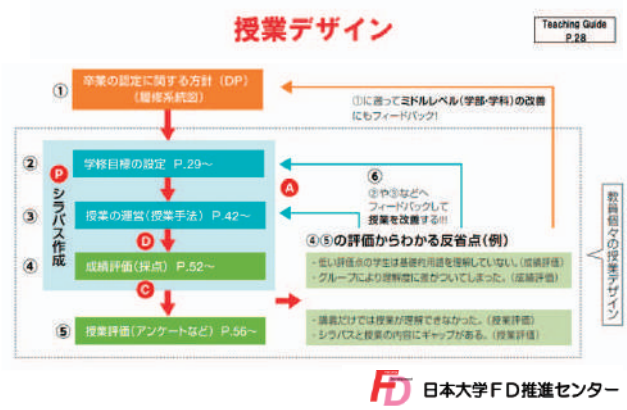


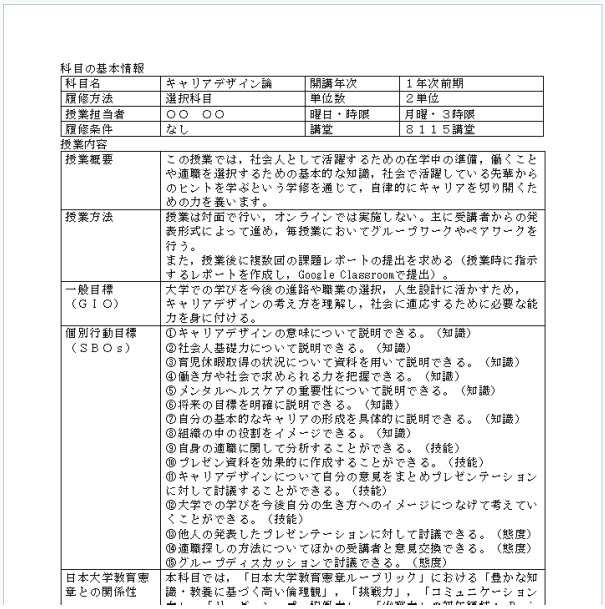
日本大学は学部ごとにキャンパスが異なるため、歯学部にいる私が他学部に知り合いをつくる機会は少ないと思います。ワールド・カフェに参加したことで、他学部の学生と話しをする機会を持て、友達を作るきっかけになり、有意義な時間であったと思います。また、同じ大学の学生であっても、多様な価値観や考え方があることが、多くの学生と交流をすることで知ることができ、これからの大学生活においても、広い視野を持って物事に取り組んでいきたいと思います。　（第1学年）

新任教員FDワークショップ 2023

梶原　美絵

5月20日にZoomによるオンラインで開催された新任教員FDワークショップでは「学生と創る 授業デザイン Teaching Guide」を活用した講演があり、日本大学の教育、シラバスの学習目標設定や成績・授業評価について理解を深めることができました。ワークショップ内では他学部の先生方と仮想科目の個別行動目標（SBOs）を設定するグループワークが開催され、学生の能力育成に向けた学習目標設定の重要性を認識するとともにその難しさも感じました。オンラインでの開催ではありましたが、他学部の先生方とディスカッションする貴重な機会でもあり、大学教育の目標を考える有意義な時間となりました。　（助教　歯科麻酔学講座）





科目の基本情報

科目名	キャリアデザイン論	開講年次	１年次前期
履修方法	選択科目	単位数	２単位
授業担当者	○○　○○	曜日・時限	月曜・３時限
履修条件	なし	講堂	８１１５講堂

授業内容

授業概要	この授業では，社会人として活躍するための在学中の準備，働くことや通職を選択するための基本的な知識，社会で活躍している先輩からのヒントを学ぶという学修を通じて，自律的にキャリアを切り開くための力を養います。
授業方法	授業は対面で行い，オンラインでは実施しない。主に受講者からの発表形式によって進め，毎授業においてグループワークやペアワークを行う。 また，授業後に複数回の課題レポートの提出を求める（授業時に指示するレポートを作成し，Google Classroomで提出）。
一般目標（ＧＩＯ）	大学での学びを今後の進路や職業の選択，人生設計に活かすため，キャリアデザインの考え方を理解し，社会に適応するために必要な能力を身に付ける。
個別行動目標（ＳＢＯｓ）	①キャリアデザインの意味について説明できる。（知識） ②社会人基礎力について説明できる。（知識） ③育児休暇取得の状況について資料を用いて説明できる。（知識） ④働き方や社会で求められる力を把握できる。（知識） ⑤メンタルヘルスケアの重要性について説明できる。（知識） ⑥将来の目標を明確に説明できる。（知識） ⑦自分の基本的なキャリアの形成を具体的に説明できる。（知識） ⑧組織の中の役割をイメージできる。（知識） ⑨自身の通職に関して分析することができる。（技能） ⑩プレゼン資料を効果的に作成することができる。（技能） ⑪キャリアデザインについて自分の意見をまとめプレゼンテーションに対して討議することができる。（技能） ⑫大学での学びを今後自分の生き方へのイメージにつなげて考えていくことができる。（技能） ⑬他人の発表したプレゼンテーションに対して討議できる。（態度） ⑭通職探しの方法についてほかの受講者と意見交換できる。（態度） ⑮グループディスカッションで討議できる。（態度）
日本大学教育憲章との関係性	本科目では，「日本大学教育憲章ルーブリック」における「豊かな知識・教養に基づく高い倫理観」，「挑戦力」，「コミュニケーション

令和５年度 全学FDワークショップ

池田　貴之

令和５年８月30日（水）～令和５年８月31日（木）に対面形式による令和５年度全学ＦＤワークショップが日本大学会館で行われました。久しぶりの対面による開催となり、各学部の先生方の間で熱心な討議が行われました。テーマ「大学教育における課題の解決に向けて－教育能力の開発（Faculty development）を企画・運営できる人材の育成－」について、初年次教育の重要性と問題点について話し合われました。初年次教育についてはどの学部でも重要と捉えられているようでしたが、その問題点については学部毎の環境や学生の特性が異なるため多岐にわたりました。ワークショップにおけるプレゼンテーションの際には学生も参加しており、学生の忌憚のない意見や感想は大変刺激になりました。ワークショップで得られた知識や経験を今後の教育現場に役立てることができれば良いと思います。

（専任講師　歯科補綴学第Ｉ講座）

随想

駿河台で過ごした日々

本田　和也

御茶ノ水の風景（飲食店）もこの約半世紀で大きく変わりました。歯学部のすぐそばにあった駿台蕎麦（名前はちがうかも！通称すんそ）、私は三色（かき揚げ、きつね、卵入り）が定番であり、お店に入ると、元気の良いおじさんとおばさんが、顔を見ただけで三色蕎麦を出してくれます。当時は多くの学生が朝ごはんを一緒に食べており、時間が9時に近づくと、教員は学生に順番をゆずり、学生から先に食べていました（学生は遅刻をすると怒られる）。なんと良い風景。

お昼ご飯は明大通りにあった中華（味一番）、中華丼と頼むと5秒後にはドンと目の前に出されます。美味しかったです！夜は、もつ焼きやの徳兵衛、焼き鳥・煮込みとホッピー！何度、酔いつぶれたか・・・。

私は昭和57年に歯学部を卒業し、本学放射線学講座へ大学院生として入局致しました。当時の主任教授は西連寺永康先生でした。私の学位論文は、「日本人胎児下顎骨の成長発育に関するX線学的研究」で、解剖学教室との共同研究でした。暗い解剖室で解剖体を傍出、おもわず居眠り、目を覚ましたら解剖体とキッス！今考えても忘れられない思い出です。この時に、胎児の顎関節を計測したことが私の人生を決めたと思っています。大学院卒業後に顎関節造影検査を開始しました。その後、前教授の篠田先生のおかげで、関節鏡を導入することができました。そして、パンピングマニュピレーション療法や関節腔洗浄療法・薬物注入療法など、歯科領域におけるInterventional Radiology（IVR）をおこないました。ノルウェーのオスロ大学への留学、JICAの専門家としてスリランカのペラデニア大学への派遣など、貴重な経験をさせていただきました。また、新井先生の開発した歯科用CTを応用した顎関節の研究で多くの英語論文を書くことができました。学部長時代には日大の大事件もあり、その時は常務理事にもなりました。

省みますと、私はなんと多くの方々に助けられてきたのだろう。歯学部の先生方や教室員の皆様には心からお礼の言葉を申し上げます

（特任教授）

未来が楽しみ

植田耕一郎

全国29歯科大学に例のない摂食機能療法学講座が2004年創設され、20年の節目を迎えている。本学を卒業し、補綴学講座の大学院から始まり、東京都リハビリテーション病院、新潟大学歯学部加齢科学講座、そして本学へと渡ってきた。

新潟大学や本学を巣立っていった教え子たちのその後は、歯科だけでなく、医療・介護・保健の職種を巻き込みながら展開する地域医療の核となっていたり、また他大学で教授、准教授や講師といった教職についたりしている。

臨床、教育、研究という職責が問われる中、私の第一の目標は、人材の育成だった。しかし、らしからぬ自分が、今日までやってこられたのは、こうした教え子たちに支えられ続けてきたからなのだとつくづく思う。

若者たちの姿にどれだけ励まされたことか。テーブルをはさんで患者の訴えにしっかりと耳を傾けていた。炎天下の訪問診療で汗をびっしょりかきながら大学に戻ってきた。医学部病院のベッドサイドで、命と向き合いながらの診療を実践していた。

彼らのその姿に、私は勇気をもらい、癒されもした。

“医は人なり”“病気を診る前に病人を見る”“健康とは感じること”といった基本理念は、決してマニュアルや教科書にして表現できるものではない。ところが、気づけば若者たちは医療技術だけでなく、このような考え方を自分の中で昇華し、さらに後輩に伝承していた。摂食機能療法と歯科診療を通じて、あらゆる全身疾患と障害をみてきた。結果がでない、治癒が見込めないなど、そうした局面に立ったことが、彼らの医療理念と医療技術を育んだのだろう。

21世紀未来に教え子たちは、どんな展開を見せてくれるのか。それらをどこまで見届けることができるだろうか。今からワクワクしている。

（教授　摂食機能療法学講座）

第55回全日本歯科学生総合体育大会 総合成績

順　位	大　学　名	得　点
優勝	九州歯科大学	169.50点
準優勝	**日本大学歯学部**	**142.00点**
3位	東京歯科大学	135.50点
4位	日本歯科大学生命歯学部	88.57点
5位	愛知学院大学歯学部	85.00点

本学部が得点した部門（上位３位）

夏期部門

1位	水泳	20点	卓球	18点
	陸上競技	19点	柔道	17点
	硬式野球	18点	日本拳法	13点
2位	バレーボール	15点	アーチェリー	8点
	ゴルフ	14点		

夏期・冬期部門の個人種目入賞者

（硬式野球部）
【最優秀選手賞】阿部健太郎（2年）
（ゴルフ部）
【優　勝】朴法力（5年）〈男子個人種目〉
（洋弓部）
【優　勝】鈴木亜弥子（5年）〈女子個人戦Aクラス〉
【入　賞】近藤宗一郎（4年）、小澤心平（3年）、玉置大祐（2年）、日澤優斗（4年）〈個人戦男子〉
池澤桃香（4年）、吉田史歩（2年）、峯村桃子（2年）、今井日菜子（2年）〈個人戦女子〉
（水泳部）
【優　勝】浅見大和（2年）〈男子50m自由形〉
大山泰世（5年）〈男子400m自由形〉
浅見大和（2年）〈男子100m自由形〉
浅見大和（2年）（大会新記録）、鈴木大智（2年）、塚田海都（2年）、大山泰世（5年）〈男子4×200mフリーリレー・大会新記録〉
鈴木大智（2年）、大山泰世（5年）、塚田海都（2年）、浅見大和（2年）、〈男子4×50mフリーリレー・大会新記録〉
浅見大和（2年）、鈴木大智（2年）、大山泰世（5年）、塚田海都（2年）〈男子4×50mメドレーリレー・大会新記録タイ〉
村上愛紗（3年）、浅見大和（2年）、大山泰世（5年）、河野令華（5年）〈混合4×50mメドレーリレー〉
【準優勝】塚田海都（2年）〈男子200m自由形、男子400m自由形〉
佐藤瑞眞（1年）〈女子100m自由形〉
鈴木大智（2年）〈男子200m平泳ぎ〉
齊藤百恵（1年）、工藤遥（4年）、村上愛紗（3年）、河野令華（5年）〈女子4×50mメドレーリレー〉
村上愛紗（3年）、工藤遥（4年）、河野令華（5年）、佐藤瑞眞（1年）〈女子4×50mフリーリレー〉
村上愛紗（3年）、齊藤百恵（1年）、河野令華（5年）、佐藤瑞眞（1年）〈女子4×100mフリーリレー〉
【3　位】鈴木大智（2年）〈男子100m平泳ぎ〉
青木知香（3年）〈女子100mバタフライ〉
河野令華（5年）〈女子50m自由形〉
（柔道部）
【優　勝】新藤佑大（4年）73kg級
今村一能（2年）90kg級
【準優勝】中野仁人（4年）81kg級
ParkJaeie（1年）女子の部
【3　位】高宮宏彰（4年）66kg級
（卓球部）
【優　勝】国岡真由（4年）〈女子シングルス〉
【2　位】小竹愛（3年）〈女子シングルス〉
【3　位】富永龍（1年）〈男子シングルス〉
（日本拳法部）
【準優勝】松岡虎紀介（2年）
（陸上部）
【優　勝】入江亮輔（6年）MVP〈男子800m、男子1500m、男子400mH〉
石野由明（1年）〈男子3000mSC〉
中村健太郎（3年）優秀選手〈砲丸投、円盤投、やり投〉
大倉万莉菜（6年）〈砲丸投〉
【準優勝】石野由明（1年）〈男子1500m、男子5000m〉
大倉万莉菜（6年）〈やり投〉
【3　位】齊木洸将（3年）〈男子走幅跳、男子三段跳〉
齊木洸将（3年）、入江亮輔（6年）、今村空（5年）、石野由明（1年）〈男子4×400mR〉
〈参考〉R・・・・・リレー
H・・・・・ハードル
SC・・・・障害
（スキー部）
【入　賞】名取秀悟（5年）〈パラレル大回転〉
山中健太朗（5年）〈回転〉

歯学体を終えて

歯学体正評議委員　前田　匠

４年振りの開催となった歯学体は、各部門で熱狂に包まれ無事に終了しました。我が日本大学歯学部は、前回大会に引き続き総合準優勝という大変素晴らしい結果となりました。この結果は各クラブの努力の証であり、コロナ禍で満足にクラブ活動が出来なかった数年間の事を考えると大変喜ばしい結果であると感じています。私自身、幾つかの競技・会場に足を運び応援させていただきましたが、競技に対して楽しく、熱く、かつ真剣に勝利を目指す姿が印象に残っています。その中でも特に印象深かったのは仲間を称える姿でした。良いプレーに対してはもちろんのこと、ミスをしてしまったことに対して仲間を鼓舞する場面が見受けられ、ある意味「日大らしさ」を垣間見ることができました。今となって考えてみると、そのような姿勢の背景にあった自分や仲間を信頼し合えていたことが、総合準優勝という結果を得ることができたと感じています。

スポーツには、人を変える力があると私は思います。サッカーのワールドカップや野球のWBCで我々にもたらしたものは記憶に新しいと思いますが、いざ競技者側になった時の「喜び」はまた違った格別なものを齎したのではないでしょうか。また目指した結果とはならなかったクラブも「悔しさ」という感情を部員で共有できたと思います。それらは個々の力は違えど、全員が本気で勝利を目指した証拠であり、信じ続けた結果得られたものであると思います。本大会で得た「喜び」や「悔しさ」などといった感情や経験を来年や更にその先へと継承し、あと一歩届かなかった「総合優勝」を全クラブ一体となって取りに行きましょう。

最後にはなりますが、4年振りの開催となり運営が大変だったのにも関わらず大会主管をしてくださった昭和大学様、各クラブ顧問・監督・部員の皆様、大学関係者の皆様、御支援いただいた皆様に深く御礼申し上げます。ありがとうございました。　（第４学年）

優勝　水泳部

主将　工藤　遥

水泳部は、2019年度の歯学体で準優勝に終わり、5連覇を逃しました。また、昨年は歯学体の代替大会への参加が台風の影響で辞退となりました。昨年までの4年間の悔しさをバネに今年こそはと臨んだ大会で優勝奪還を成し遂げ、4種目で大会記録を樹立できたこと、とても嬉しく思います。また、部員全員が大会を全力で楽しみ、そして各々が持っているものを全て出し切ったレースにできたことが我々水泳部にとっていい影響となりました。普段から多大なるご支援、ご協力をしてくださった先輩方や先生方、御父兄へ良い結果報告をすることができました。来年度は2連覇できるよう、日々の練習に精進して参ります。さらに、去年と今年で作り上げた部員同士の絆をより良くしていくための部活作りにも励んでまいります。　(第4学年)

優勝　陸上競技部

主将　俵藤　美花

今年度のオールデンタルで陸上競技部は総合優勝し(フィールド競技1位、トラック競技2位)、6連覇を成し遂げることができました。コロナ明け初のデンタルでブランクもあり、出場する選手のほとんどは初出場という形で不安も多くありました。その中で、一人一人が目標に向かって全力を尽くした結果が身を結び、連覇を果たすことができて大変嬉しく思います。当日来てくださったOB・OGの方々の声援は大変励みになりました。応援してくださった全ての方々に心より御礼申し上げますとともに、今後も連覇を果たせるよう精進して参ります。　(第4学年)

優勝　硬式野球部

主将　佐藤　太

入学時にコロナ禍となり、部活どころか授業も対面でできずに3年が経過した。4年生に主将として初めてのデンタルを迎え、先輩や後輩に助けられながら、チーム全員で野球部34年ぶりの優勝という結果を掴んだ。上級生を中心とした仲の良い、団結力のあるチームだったと思う。初戦こそ緊張で硬さがあったものの、2回戦以降は雰囲気も内容も試合を重ねるごとに良くなっていった。またチームを作り直し、来夏のデンタルに向けて、この優勝の経験を踏まえて頑張っていきたい。デンタルを通じて、大学の先生方、OBの先生方、両親など、多くの人に支えられていると強く感じた。感謝の気持ちを忘れずにやっていきたい。

(第4学年)

優勝　卓球部

主将　国岡　真由

卓球部は、8月に福岡で開催されたオールデンタルにおいて、総合優勝(男子団体3位、女子団体優勝)を勝ち取ることが出来ました。大会期間中は厳しい暑さが続きましたが、この結果は、部員皆が一丸となり試合に望むことができた成果の賜物だと思います。また、これまで支えてくださったOB、OG、監督、顧問の先生方、そして御父兄の皆様に感謝いたします。来年は初の2連覇に向け精一杯努力して参ります。引き続き、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。　(第4学年)

優勝　柔道部

主将　新藤　佑大

この度、柔道部は10年ぶりに団体戦優勝をすることができました。また、個人戦でも優勝2名、準優勝2名、3位1名という喜ばしい結果で終えることができました。

今年度は部門主管も務めさせていただきながら臨んだ大会で大会運営の大変さと面白さを学ぶことができ、充実した大会となりました。来年は団体戦連覇、個人戦は今年度以上の結果を残せるよう精進してまいりたいと思います。

最後にお忙しい中、大会に携わっていただきましたOB・OGの先生方、応援してくださった皆様ありがとうございました。今後とも、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。　(第4学年)

優勝　日本拳法部

主将　川俣　航平

決戦の地大阪。ここに目をギラつかせた漢9名、美人マネージャー3名、歴戦の猛者たちであるOB.OG18名の大所帯で大阪歯科大学に乗り込んだ。結果は団体戦優勝、個人戦準優勝というとても良い成績を収めることができた。しかしそれは驚くことに全員白帯なのである。それはなぜか。なぜ白帯軍団が団体戦優勝することができたのか。理由は一つ。OBが強すぎる。胴越しでも感じる重い蹴りや見えない速さで打ってくる突き。一度組んでしまったら気づいた時には天井を見上げている。そんな方に教えてもらい練習すれば未経験者でも絶対に強くなれる。来年は連覇を目指し日々努力したい。新生日本拳法部最強の白帯軍団の物語は始まったばかりである。　(第3学年)

準優勝 バレーボール部

主将　蓮池　惟史

4年ぶりに開催されたオールデンタルにおいて、男子4位、女子準優勝、総合準優勝という結果に終わりました。コロナ禍に入ってからの3年間は思うように練習を行うことができなかった中で、今回男女ともに良い成績を収められたことを嬉しく思います。来年度は今年度以上の成績を目標に活動していきます。最後にお忙しい中会場にお越しいただいた先輩の方々ありがとうございました。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。　(第5学年)

準優勝　ゴルフ部

主将　藤井　響

この度、久邇カントリークラブで行われた第55回全日本歯科学生総合体育大会ゴルフ部門において、男子総合部門優勝、男子個人部門優勝、総合2位に入賞し、近年稀にみる結果を示すことが出来ました．昨今はコロナ禍で困難な時期ではありましたが、その中でも多くのOB・OGの諸先生方に御指導を頂き、選手自身も頑張った賜物だと感じております。これを機に、部員一同今後も練習に励んで参りたいと思います。　(第5学年)

準優勝　洋弓部

主将　津村　昌輝

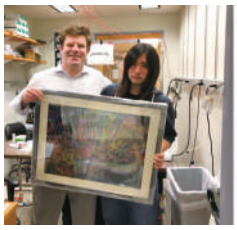
第55回全日本歯科学生総合体育大会において、洋弓部は女子総合1位、男子総合2位、団体総合2位という結果でした。4年ぶりの開催で、現役部員全員にとって初めての大会でしたが、部員が一丸となり、誰も怪我することなく無事に大会を終えることができたこと、大変喜ばしく思います。また、このような輝かしい結果は、何よりも部員全員のたゆまぬ努力の賜物です。応援してくださった皆様にはこの場をお借りして感謝申し上げます。　(第4学年)

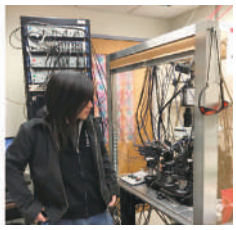
Visiting Scientistとしての恩返し留学

金子　啓介

私は2022年12月から約3カ月、海外派遣研究員の制度を利用してアメリカ合衆国ペンシルバニア州フィラデルフィアにあるEthan Goldberg博士（Children's Hospital of Philadelphia/University of Pennsylvania）の研究室で電位依存性K+チャネルの遺伝子異常によって起こるてんかんの研究をしてきました。私は以前Ethanの研究室にポスドクとして在籍していました。途中でwithコロナの時代となりフィラデルフィアはロックダウンにより治安も不安定となり不自由だらけでした。研究室が半閉鎖の状況にも関わらず毎日実験室に通う私のためにEthanの奥さんがMac'n CheeseやZitiを差し入れしてくれたことは良い思い出です。

私とEthanとの出会いは2018年に開催されたSociety for Neuroscienceという学会でした。当時私は大学院4年生で次年度のポスドクのポジションを探しており、私と専門分野の近いEthanが私にメールを送ってくれたのがきっかけでした。学会で実際に会い、学会場近くのカフェで面接を受けました。当時英語が全く話せなかった私は、本学の薬理学講座で習得したパッチクランプのスキルをとにかく売りにし、幸運にもEthanは私をポスドクとして快く受け入れてくれました。私にパッチクランプを教えてくれた小林真之教授（薬理学講座）と小柳裕子准教授（歯科麻酔学講座）、私を快く受け入れていくれたEthanには深く感謝しております。





そしてこの度、Ethanの研究室でやり残した仕事や友人のプロジェクトを少しでも進めるため、Visiting Scientistとして研究室に再訪問し、Ethanや友人たちとの再会を果たすとともに再びてんかんの研究に携わり、まさに「私のやりたかったこと＝Ethanへの恩返し」という目標を達成しました。現在は論文の再投稿のための準備をしています。

海外での研究経験はその後の人生を間違いなく豊かにします。若手研究者には本学の海外派遣研究員の制度を強くお勧めします。（助教　歯科麻酔学講座）

SCRPを終えて

行田　亘那

2023年8月25日、令和5年度スチューデント・クリニシャン・リサーチ・プログラム（SCRP）日本代表選抜大会に出場いたしました。

今回、私は超高齢化社会を背景に増加傾向にある根面齲蝕に着目し、「フッ化スズ含有歯磨剤の根面齲蝕予防効果 -Effect of stannous fluoride containing toothpaste on root caries prevention-」をテーマに研究をしました。古くから歯面塗布溶液として使用されていたフッ化スズには歯への着色や不快な味、水分存在下での安定性が良くないなどの欠点がありました。しかし、近年の技術によりこれらの問題点が解決された今、再評価されるべきであるとし、現在一般的に用いられているフッ化ナトリウムを比較対象に用いて研究を行いました。毎日研究室に足を運び、ひたすらウシの歯を磨くという地道な作業をしましたが、日々新しい学びを得ることができました。

表彰状

入賞

日本大学歯学部第5学年
行田亘那殿

貴殿は令和5年度日本歯科医師会スチューデント・クリニシャン・リサーチ・プログラム日本代表選抜大会において頭書の成績を収められました貴殿の高い学究心と絶え間ないご努力に対し　惜しみない賞賛を贈るとともに　今後のご活躍をお祈りします

令和5年8月25日

公益社団法人 日本歯科医師会
会長 高橋英登

大会は、対面による3度の英語を用いた発表ならびに質疑応答により審査が行われました。残念ながら上位入賞とはなりませんでしたが、他大学の学生の研究への意欲に大変刺激を受け、また交流を深める良いきっかけとなりました。

最初にSCRPのお話をいただいた時は学生の身で研究発表をできるのか心配な部分もありましたが、先生方のお力添えもあり、研究過程や発表練習は楽しく、代えがたい経験となりました。

最後に、至らない私を最後までサポートして応援してくださった宮崎教授と高見澤先生、一緒に研究をしてくださった柴崎先生、連日発表の練習にお付き合いいただいた保存学第Ⅰ講座の先生方、田嶋先生、応援してくれた家族と友人に心より感謝いたします。（第5学年）

FIBA バスケットボール ワールドカップ 2023 沖縄グループステージの大会デンタルアドバイザーとして参加して

スポーツ歯科 科長　月村　直樹

今大会は、4年に一度の大会で2023年8月25日から9月10日にフィリピンとインドネシアと日本の共同開催の形式で世界中の各地域からの代表32ヵ国が、4チームごと8つのグループに分かれで予選を行い、勝ち残った8チームが決勝トーナメントに進出し優勝を争うものです。日本会場である沖縄市においては、その中のグループEとFの8ヵ国の試合が行われ、日本代表は、ドイツ、フィンランド、オーストラリアと対戦するグループEに組み込まれました。結果としては、予選プールではフィンランドに勝利し1勝2敗で、17位以降の順位決定戦に回り、ベネズエラとケープベルデに劇的な勝利して、全体で3勝したことでアジアの最高位になり、来年開催されるオリンピック・パリ2024大会の出場権を獲得するという快挙を成しえたことは、皆様の記憶にもまだ新しいことだと思います。

今回の、私の業務ですが、沖縄県那覇市保健所の学部36回の嘉手納一彦先生とともに大会中の20試合における口腔内外の外傷が起きた際の対応、すなわち、外傷が起きた際に、①その場での医務室対応、②沖縄市の中部歯科医師会の先生方への治療依頼、③琉球大学病院歯科口腔外科の先生方へのオンコール依頼、④同大学病院への救急搬送を、軽症から重症度に分けて適切に振り分けるといったものでした。今回は、幸いにも大会期間中に想定していたような口腔内外の外傷は発生致しませんでした。いざというときの準備については、オリンピックの際も経験いたしましたが、やりすぎることはないと思います。口腔外傷の対応マニュアルを作成し、後方支援の先生方とタイアップ体制を構築することは、スポーツ歯科として大事な業務の1つであるとともに世界大会においては開催国の威信にかかわることを理解して頂けたらと思います。

（准教授　歯科補綴学第Ⅱ講座）

目黒日本大学中学校による歯学部訪問

企画・広報委員会委員　関　啓介

目黒日本大学中学校から、キャリア教育の一環として歯学部訪問の打診を受け、令和5年9月9日（土）に校外授業を実施する運びとなりました。当日は、教頭先生をはじめ5名の先生と中学3年生80名が来校しました。昨年（中学2年時）は、生物資源科学部を訪問したそうです。会場は本館地下1階の第4実習室でしたが遅刻者もなく定刻の10時に開催することができ、まずは岡俊一企画・広報委員会委員長から開会のご挨拶がありました。

授業内容は「歯のフシギ」として、様々な疑問を想定しそれに応えるクイズ形式で行いました。例として、「あなたの歯は何本？」、「歯の硬さは？」、「なぜ生え変わるのか？」など、10問を挙げ解説しました。中学生に対する授業経験はなく、どのような反応で聴講するのかは未知でしたが、こちらの問いかけに対して自由に元気いっぱい発言していたことが印象的でした。特に、「医学用語はなぜか音読みが多い」では難しい用語を音読することにトライし、「咬筋を触ってみよう」ではかみしめたときにできる力こぶを実際に確かめてみることで、最後まで飽きずに聴講していたようです。講義終了後は生徒代表者からお礼の言葉をいただき、解散する際にはノベルティとして日大歯学部マーク入りのタオル1枚とディスポーザブル歯科検診用ミラー1本を配布し、こちらも好評をいただきました。教諭の先生方からもわかりやすい授業であったとのありがたいご感想を頂きました。本企画を準備して頂いた担当職員の方々に感謝申し上げます。

（専任講師　総合歯科学分野）

オピニオン

○前期最後の平常試験を終え、大学生初の夏休みが始まった。ようやく、新型コロナウイルス感染症の位置づけが変わり、大学の友人とはもちろん、小学校、中学校、高校時代の友人に会ったり、数年ぶりに家族旅行へ出かけたり、クラブ合宿に参加したりと充実した夏休みを過ごすことができた。オンとオフをしっかり切り替え、後期も一生懸命勉学に励みたい。　**（1年　山田　凛子）**

○私は韓国人で、日本大学歯学部に留学しています。日本と韓国は近く、互いに文化は似ていますが、時々異なる側面もあります。例えば、友達と連絡先を交換する際に韓国では電話番号を交換する反面、日本ではLINEを交換するなど些細な文化の違いがあります。私はこうした違いを感じながら、世界を見る視野を広げるのが楽しいと思っています。

（1年　YOO SANGWON）

○第２学年では歯の構造や発生といった歯に関わる内容だけでなく、運動器や感覚器、神経といった人体全体に関わる広い範囲の内容を学びます。広い範囲を学ぶことは大変なのですが、とくに実習では教授や先生方が学生目線でわかりやすい解説をしてくださるため、教科書を読むだけでは得られない高度かつ実践的な指導を受けられていることを実感しています。日々行われる試験の難易度は大変高いのですが、順調に進級、国家試験合格まで進みたいです。今学んでいることが将来の自分の診療に役立ち、患者さんの笑顔に繋がることを目指して、今後も勉学に励みたいと考えています。　**（2年　米永　龍介）**

○美しさとは何であろうか。最近よく考えるのだが、人が美しいと感じる瞬間はとにかく大事にしたいと思う。先日、宮崎さんの描いた「君たちはどう生きるか」を鑑賞してきた。もちろんこんなセリフはないが、「僕が創ってきた美しい世界はこれだ！君たちは自分たちの手で、君たちの美しい世界を創るんだ！」と、言われた気がした。この映画で描かれる世界や、建物がとても美しいのである。そんな美しい世界を感じたいと思い、映画の中で見られるような建築物を展示している、明治村というテーマパークにまで行った。純粋に美しかった。そろそろ文字数いっぱいではあるが、やはり、美しい文章を書くことは常に難しいものである。**（3年　今仲　晏智）**

○CBTやOSCEを控えた第４学年では、学年全体の勉強に対する姿勢が変わり全員で突破しようという思いのもと、良い雰囲気で勉強に取り組んでいます。専門性の高い講義や実習が増えていく中で、今まで以上に「将来どのような歯科医師になりたいか」を深く考えるようになりました。歯科医師としての必要な知識と技術を習得できるよう、また将来の選択肢を増やせるように学業に励みたいと思います。またクラブ活動では主体となって活動することが多くなる学年となり、夏のオールデンタルでは総合成績で準優勝という結果を残すことができました。学生生活の折り返しの学年として１日１日を大切に悔いのない充実した生活を送りたいと考えています。

（4年　二ッ谷　和那美）

○近年プレミアリーグを中心としてサッカー界の放映権料や移籍金の高騰が続いている。そんな中、新たな変革が起きた。サウジアラビアの大規模な市場参入である。昨夏ロナウドがサウジに渡ったことは記憶に新しいが彼はキャリアの終末期にある選手の為それ程驚きはなかった。だが今夏は潤沢なオイルマネーを用いてネイマールやベンゼマ等の大物移籍を次々と慣行。まだトップレベルで数年プレー出来る選手達が10倍の年俸に釣られ欧州を離れていった。もちろん家族や将来を考えれば魅力的なオファーだが、ファンとしては一抹の寂しさを感じずにはいられない。ここに金銭を優先するか、名誉や夢を選ぶのかそんな将来の自分達にも通じる問題を感じた。　**（5年　戸田　將）**

○大学へ入学し、紆余曲折を経て気が付けば６年生。歯科医師国家試験の勉強に追われながらも学び舎に通っていると、「先輩」という言葉をかけることよりもかけられることの方が多いことに、筆舌に尽くし難い儚さを感じています。入学した頃は、大学生活で何を成し得ていこうかと考えていましたが、何度思い返しても自分だけで成し得た物事はあまり印象に残っていません。しかし、青く輝いた時間を私に与えてくれた仲間達や先生、先輩・後輩達、そして家族との記憶は色濃く残っています。きっと私の場合、これから先どんなに歳を重ねても、自分が残したものよりも大切な人たちが残してくれたものに大きな価値を感じるのだと思います。　**（6年　西田　哲才）**

クラブだより

ダンス同好会

主将　石田　大

ダンス同好会、主将の石田大です。部員数は10名ほどで、主に桜歯祭での活動を目的として週1回程度練習しています。昨年度は桜歯祭の実施の可否や規模が直近まで不明だったこともあり、同好会としての参加はありませんでしたが、今年度はそれに向けて準備をしています。

令和3年度の終わりに立ち上げて、概ね2年が経ちます。自分自身はブレイクダンスを7年ほど続けていますが、何事も継続するのは簡単ではありません。ダンス同好会での活動も、学内での練習場所の確保が難しかったり、スタジオレンタルの費用が嵩んだり、多くの困難があります。今後、同好会がクラブに昇格していく事もあると思いますが、困難に打ち勝ち、世代に渡って継続されることを望みます。　(第3学年)

釣り同好会

主将　濱崎　竜一

初めまして釣り同好会です。私たちは去年の6月に感染症免疫学講座の田村宗明先生を顧問にお迎えして発足し、いま1周年を迎えています。今年も多くの1年生が入部して今では30人を超す学生が在籍しています。活動としては、月に一度の土曜日に海や渓流などで釣りをするほか、部員間の交流を深めるために食事会を行うことで同学年だけでなく上下の繋がりも大切にしています。8月はBBQを行い、9月には渓流の管理釣り堀でマス釣りを行う予定です。あと1年間同好会として継続することによりクラブへ昇格しますので、それを目指して部員とともに頑張っていきたいと思いますのでよろしくお願いします。　(第4学年)

進学相談会の様子

昨年度に引き続き事前申し込みでの定員制とし、第1回6月18日（日）、第2回7月9日（日）、第3回が8月20日（日）に対面で実施され、受験希望者と保護者等合計302名の参加がありました。まずはじめに、百周年記念講堂で学部長による学校紹介、学務担当が新カリキュラムの説明を行いました。その後、本館の教室、実習室、ラウンジなどの校内見学、グループスタディールームでは教員による個別相談が行われ、寄せられた多くの質問に教員が丁寧に一つ一つ答えていました。また、本年度は新企画として在校生による相談ブースを設け、来場者からは在学生の生の声が聞けたと好評を博しました。

ほけん室から

秋バテと冬の感染症予防

今年は気象庁観測史上最も暑かった夏でした。ようやく涼しくなり過ごしやすくなってきましたが、秋バテしていませんか。夏の暑さがやわらぎ、涼しくなってきたにも関わらず、疲れやすい、やる気がでない、朝すっきり起きられない、めまいがする、肩こりや頭痛がある、食欲がない等の症状があれば、秋バテかもしれません。元気に乗り切るコツとして①日3食バランスの良い食事をとる②睡眠はしっかりとり生活リズムを整える③適度な運動を心がける④ぬるめの湯船につかり身体をあたためるなどがあります。このような対策を行い、冬に備えて免疫力を高めましょう。冬に流行する感染症として新型コロナウイルス、インフルエンザ、ノロウイルスがあります。対策としてワクチン接種や手洗いうがい、咳エチケットやマスクの着用等できることから始めましょう。ワクチンや体調について質問や心配は保健室（3号館1階）にご相談ください。

令和5年度 第1回 公開講座案内（11月）

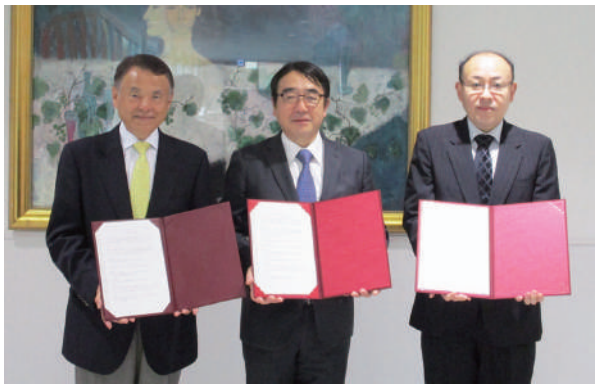
歯学部ホームページのリニューアルについて

ご利用される方々にとってより見やすく、わかりやすく、充実したホームページにするためにリニューアルいたしました。
https://www.dent.nihon-u.ac.jp/

NewsPlus α

☆災害時における医療支援に関する協定書の締結について

渋谷区及び渋谷区歯科医師会と付属歯科病院において、災害対策基本法に規定する災害が発生した場合には、口腔顔面領域の傷病者に対する医療支援を行う協定を令和5年9月28日から3年間締結しました。



☆特定共同指導実施について

令和5年9月26日（火）、27日（水）に厚生労働省並びに関東信越厚生局及び東京都による社会保険医療担当者の特定共同指導（歯科）が実施されました。

学　事

歯学部行事予定

10月　4日（木）　日本大学創立記念日
　　6日（金）・7日（土）　桜歯祭
　　14日（土）　父母懇談会
　　21日（土）　外国人留学生選抜、編入学試験、転部試験
　　28日（土）　解剖体追悼法要
11月11日（土）・12日（日）　リーダーズキャンプ
　　18日（土）　学校推薦型選抜（公募制）
　　学校推薦型選抜（付属高等学校等）
　　校友子女選抜
12月25日（月）　卒業者発表

お知らせ

寄付金の受け入れ

＝研究助成金＝

30万円　株式会社松風
口腔外科学第Ⅰ講座へ
（代表取締役社長　髙見　哲夫 殿）　6.30

50万円　サンメディカル株式会社
歯科補綴学第Ⅲ講座へ
（代表取締役社長　中島　祥行 殿）　8.15

50万円　サンメディカル株式会社
歯科保存学第Ⅰ講座へ
（代表取締役社長　中島　祥行 殿）　〃

30万円　サンメディカル株式会社
歯科保存学第Ⅱ講座へ
（代表取締役社長　中島　祥行 殿）　〃

50万円　サンメディカル株式会社
歯科理工学講座へ
（代表取締役社長　中島　祥行 殿）　〃

60万円　株式会社HPG
感染症免疫学講座へ
（代表取締役　金山　正則 殿）　9.4

編集後記

昨年の桜歯祭は新型コロナウイルス感染症の影響により縮小形態で実施されたが、令和５年５月８日以降は感染症の分類が５類感染症移行したため、本年度は10月６日、７日に桜歯祭が通常通り実施された。実行委員長が中心となり多くの委員が桜歯祭を盛り上げるために早期から検討を始めていた。実行委員が一致団結力して、歯学部だけでなく専門学校とともに素晴らしい学園祭が開催されたと私は考える。このようなイベントを介して、学生は学年を超えたコミュニケーションを図る機会となりより良い人間関係が構築される。一方、教職員は学生に講義や実習で教育できない社会的に必要な知識を伝えていく良い機会となる。次号には、桜歯祭を終えての報告があるので、読者の皆様は楽しみにしていただければと思う。桜歯祭を成功に導いた委員長をはじめ関係者へ、今一度感謝の気持ちを伝える。（Y.T）

表紙の写真は桜歯祭テープカットの様子です。桜歯祭については次号に掲載予定です。

第220号　日本大学歯学部発行
東京都千代田区神田駿河台1-8-13　TEL　03（3219）8001